

笑顔あふれるこの店から 輝く明日をつくっていこう

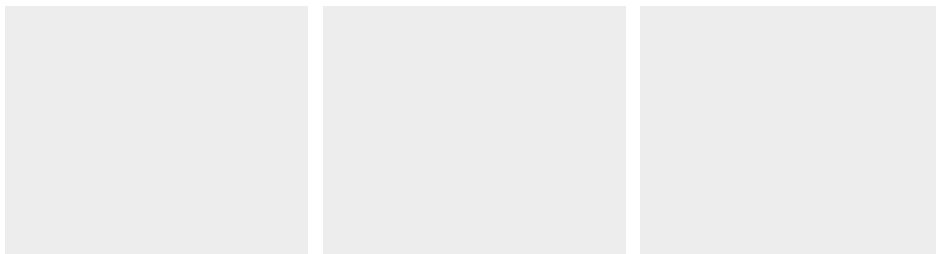
PROFILE

1977年 神奈川県生まれ。2010年に福島市へ移住し、屋台村で居酒屋を開店。その後あらためて独立し、人気の居酒屋「たすいち」を営んでいます。

ろばしゆか 炉端酒家 たすいち オーナー／うらもと たかのり浦本 剛徳さん



1. 2010年、福島市の屋台村に居酒屋「五里夢中」をオープン。2. 2011年、東日本大震災直後は仲間と協力して炊き出しボランティアに取り組みました。3. 4月のある休日、店のスタッフやお客さまと、桜の名所の一つである信夫山へ。お花見を満喫しました！



3

2

1

見知らぬ土地での挑戦
人の温かさに出会った屋台村

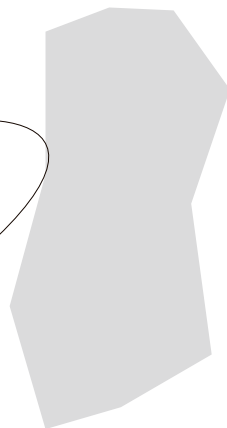
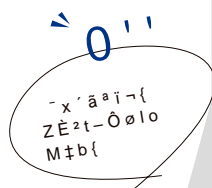
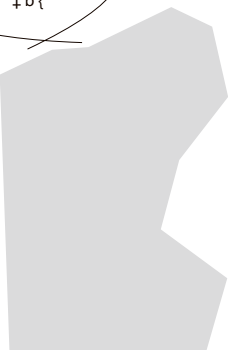
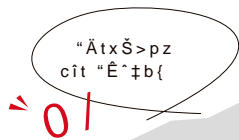
僕が飲食業の世界に入ったのは22歳の時。大阪や都心で修業し、30代前半の頃、そろそろ独立を考えた。最初は考えましたが、知人を介して、福島市の屋台村のオーナーが出店者を探していると知り、挑戦することにしたんです。飲食業で成功するかどうかは、地方か首都圏かは関係ないと感じていたこともあり、比較的少ない元手で開業し1年単位で更新できる屋台村のシステムは、身軽に挑戦できる好機だと思いました。

2010年6月に福島市へ移住すると、6坪の小さな居酒屋「五里夢中」を開店。すぐに隣の店主と仲良くなり、一週間ほど経ったある日、その店主と常連さんが10人くらいで僕の店を訪ねてきました。どうやらその日が僕の誕生日だ。どこかで知ったらしく、お皿に盛り付けたケーキを持って、「おめでとう！」と祝いに来てくれたんです。まさかこんなふうに祝って歓迎してもらえるととは思っていませんでした。すごくうれしくて、「ああ、僕はここにいていいんだ。こういうことができる人間

震災から生まれた仲間の輪
みんなで未来をつくりたい！

になりたいたい」とひしひしと感じました。

開店から約9カ月後の2011年3月、東日本大震災が発生。停電になり、水の使用も制限され、さすがにしばらく営業はできないと思われました。先が見えない状況の中、気持ちを落ち着かせようと街を歩いていると、近隣の店の人たちが炊き出しの準備をしていたんです。僕の店にも食材はある、このまま無駄にするよりは困っている人に食べてもらいたいと思ひ、炊き出しボランティアに参加することに。活動を続けるうちに、同業者やその友人、お客さまなど20〜30人の仲間の輪が自然とでき、「この人たちと一緒に福島で未来をつくっていききたい」と思うようになりました。



その後、2013年8月に屋台村を出て、11月に「たすいち」を開店。店名は、「+1」という意味です。お客さまが「ただいま」と言って帰ってきたくなるような、もうひとつの居場所でありたいという思いと、毎日一歩ずつ積み重ねて店を良くしていこうという決意を込めました。僕たちが一生懸命楽しく働いているから、お客さまもなんだか幸せな気分になり、「明日も頑張ろう！」と感じて帰ってもらえたら最高だなと思います。また、僕たちの姿を通じて、「仕事って楽しいんだ」「自分次第で人とのつながりや街の姿は良くできるんだ」「僕も一緒に街をつくりたい」と、次の世代の人々が感じてくれるような店にしていきたい。それが、僕が福島で店を続ける意義だと感じています。

3
3 Å ˆ • μ » ˆ Ñ
q w 4 ± > 4 Q o T'
< P ` † b {

1 w 2 3 ~ " Å > j ~ % q z E
i » I á " J Ō T ' w V ˆ . " ' ' h
) j a M h i Z † b {

• i w I P • f w ~ >
, ' Š " Y Ç á " U
c " ,

% 3
S I ^ † t , ` æ p < ' S
O q z i t x G ` Ç E < a p
% g) T M {

Ü Š ^ æ w ° Ô œ

Z È
% g w " ^ • ß † s r z
% 3 j < > æ M † b {